2022年 12月21日

たてくろジオパーク だより 第53号

発行：立山黒部ジオパーク協会 事務局
〒930-0856 富山市牛島新町5-5 タワー111ビル1階 TEL: 076-431-2089 FAX: 076-482-3204
MAIL: info@tatekuro.jp HP: https://tatekuro.jp/ https://facebook.com/tatekuro

第3期実施計画策定に向けて、ワークショップを開催します！

12月6日（火）第3期の基本計画策定に向けて第3回基本計画策定委員会が開かれました。
その中で、立山黒部ジオパークの理念と目指す姿は以下のように決まりました。

＜理念＞
立山黒部ジオパークは
（1）みんなで「学び、楽しむ」
（2）みんなで「守り、伝える」
（3）みんなのふるさと富山を「元気にする」
（4）みんなの「絆を強め、想いと知恵を活かす」
を理念として掲げています。
＜目指す姿＞
自然と共生してきた歴史を学び受け継ぎ、さらに自然の多様性や地域の課題の理解を深めることに共感する多くの人と、持続可能な社会づくりの一翼を担います。

第2期の計画の成果と課題を受け、理念に沿って具体的な活動について部会協議を経て実施事業を決めて行く予定です。

令和5年1月21日（土） 立山黒部ジオパークワークショップの開催

基本計画を具体化する実施計画について話し合いを行います。会員のみなさんには、ワークショップに参加し5年後の立山黒部の姿を想像しながら、行いたい事業を提案していただきたいと思います。

1 期日 令和5年1月21日（土）
2 時間 午後1時30分～
3 会場 タワー111ビル
4階 ギャラリー
4 内容
・第2期基本計画・実施計画5年間の振り返り
・第3期基本計画骨子の説明
・実施計画作成に向けて意見交換

令和2年10月のワークショップでの意見交換

立山黒部ジオパークの魅力をアップさせる活動のアイディアを募集します！自由に語り合いましょう。

ぜひご参加ください！

活動紹介

☆11/13・20・27「下立まちあるきツアー」

11月13日、20日、27日に黒部市の下立（おりたて）地区でジオツアーを開催しました。
この事業は、黒部市からの委託をうけ、富山国際大学と連携して、下立地域を中心に多様な来訪者に対応したジオツーリズムの開発を行うことを目的に実施しています。
13日と20日は、下立地域の住民向けツアーを行いました。
地元の方にガイドをしていただき、下立神社・おりたて霊水・下立の大理石などを見学しました。終了後には、参加者が公民館に集まり、ツアーの感想や課題点などの意見交換を行いました。
下立に住んでいて知っていても、改めて足を運び、じっくり見ると見学対象のもつ価値が分かってくるような気がします。
27日には、一般のお客様向けにツアーを実施しました。当日は、澄み切った秋晴れのもと、ジオガイドの案内で、下立神社・おりたて霊水・下立の大理石に加え、くろべ牧場まきばの風、十二貫野湖を訪れました。参加者からは、初めて訪れた場所で、いろいろな発見があり楽しかったなど好意的なご意見をいただきました。
ご協力いただいた地域住民の皆様、ありがとうございました。

ツアーについて打ち合わせ

下立の展望台で大理石を観察

立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

☆国際山岳年プラス 20 シンポジウム in 黒部　テーマ「我ら皆、山の民」ー現在と未来ー

12 月 10 日 (土) 、11 日 (日) に黒部市芸術創造センター「セレネ」 でシンポジウムが開催されました。約 200 名の参加者を前に、山岳地帯や山間部の現在の課題と未来について、講演やセッションが行われました。「山小屋と登山道の取り組みと安全への歩み」「山岳地域の災害と復興の経緯」「山岳地域の自然資源の保護・保全対策」「山岳地域の観光利用拡大による注意点」等、世界の実情を踏まえた熱心な協議となりました。立山黒部ジオパークも特別協賛し、セッション 4 にパネリストとして参加しました。

＜セッション 4＞「山岳ジオパークの現状と国民への普及」

ほとんどの日本ジオパークは山岳を含んでいる。山岳ジオパークとして立山黒部、糸魚川、栗駒山麓の活動事例をもとに、普及や保護、活用について議論した。

・ジオパークにとって山岳とは

立山黒部では、平野部に住む人たちは、遠くに山があると思っているが、山岳域とは川で繋がっており、自分達の土地と関わりが深いことを伝えてきた。また、山岳ジオガイドの制度を新たに追加し、安全・安心の上でジオの魅力を伝えるジオツアーを始めた。

・課題である保全と活用について

糸魚川ではジオサイトの保護と観光活動を行うことで企業がジオパークの必要性を理解してきた。また、栗駒山麓では 2008 年に起こった地すべり地の保護・活用に時間をかけて取り組んできた。

討議では研究者が正しい情報を出し地域住民にジオ的な知識を身に付けてもらいながら、地域を守る活動に参加したり貢献したりしてもらうことができるのがジオパークの活動であると認定された。このジオパークのアプローチが保全と活用に有効であることが示された。

＜クロージングセッション・まとめ＞

山の価値観の多様化や山へ登る行為の変化は 20 年前には予想していなかった。登山者の安全のために登山道を整備したり救護活動を行ったりという活動は、山の文化を継承する山小屋がボランティアとして行ってきた。しかし近年人材不足により、人材育成や法的な整備が必要となってきている。20 年を経て山を管理し維持していくのは誰かを考え、必要な予算や人材の確保が必要である。

自然の保護・保全についてはイギリスのナショナルトラスト（国民のために、国民自身の手で優れた美しい自然地域や歴史的建造物などを寄贈、遺贈、買い取りなどで入手し、永久的に保護管理することを目的とする）のような民間協力と財源を確保する体制作りができればよい。また、自らが責任をもって行動できるようジオ教育やジオツーリズムを一層進めていくことも期待される。一方、山岳という地形から災害は避けがたいが、世界的な努力や工夫と、日本で培われた土木技術は世界に貢献できる。

様々な活動を海外発信していくことで情報共有し、世界的な連携をもって持続可能な山岳地域の発展に努めたい。

☆11/21~23　JGN 全国研修会

11 月 21 ～ 23 日に宮城県栗駒山麓ジオパークで開催された「第17回 JGN 全国研修会 in 栗駒山麓」には全国から 70 名が集まり、当協会からは 2 名が参加しました。

ビギナーコース（経験 3 年以内）と経験者コースに別れ、私が参加したビギナーコースは「“守る”ことの必要性を知る」を目標として研修が行われました。

伊豆沼に飛来するマガン

題材は、冬季に10万羽のマガンが飛来し、ラムサール条約登録湿地である「伊豆沼・内沼」です。

はじめにこのサイトを巡検した上で、保全すべき対象とその価値、保全する上での脅威、保全する意義について6人チームで話し合い、理解を深めました。最終日には、「伊豆沼・内沼」の保全に関する課題を解決するために「何（事業）をするかをチームで提案し、その予算獲得に向けた模擬プレゼンテーション」を行いました。私が参加したチームは、保全に関する様々な課題を総合的に解決する方策として「湿地大学をつくる」ことを提案しました。

初めて出会ったチームメイトと議論を深め、役割分担をして資料を作り、発表する過程でお互いの特徴を知り、協力して成し遂げる喜びを感じるとともに、学んだことを生かしていきたいと思いました。

☆12/1 富山大学人間発達科学部「地域交流活動論」

「自然環境を生かした地域交流活動のあり方について」

人間発達科学部 3 年生の４０名が受講。ジオパークの理念について話すとともに、今年特に地域とかかわって行った活動について具体例を交えて話をしました。教員を目指す学生も多く、ジオパークの活動やふるさと教育におけるジオパークの素材の活用について意見や感想など、後日レポートにして寄せてもらいました。

＜レポートより＞

・観光として立山アルペンルートや埋没林博物館を訪れたが、景色に感嘆することばかりであったと思う。しかし、自然現象からどのように形成されたのかという話を今日聞くと、楽しむ視点が変わったりより高度で専門的な観光が出来たりすると思った。実際、岩石の質によってバスの道が作られるかどうかが変わるという事実や 200 株の木の根が海に埋まっていた事実を知っていればもっと視点を変えた考え方が出来ると可能性を感じた。自分の地域にあるものは、存在自体は知っている人が多いと思う。しかし、より深く知り本当の「地域を知る」という部分に到達するためには自然や地形と生活の関連を結びつけることが必要であると思った。

・出前授業の他にファボーレなどのショッピングモールという、ファミリーが多く集まる場で楽しく学べるイベントを開催しても良いと考えた。やはり人が多く集まる場でのアピールが意識の広がりには有効であると考える。SNS ももっと活用すればよい。

ジオパークの活用と PR 方法について考えてもらいました

立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

☆ 12/13 黒部川扇状地研究所 × 立山黒部ジオパーク 講演会

富山県総合福祉会館「サンシップとやま」においてドイツのベルリン自由大学名誉教授ヘルマン・クロイツマン先生より、ドイツのジオパークや、活動の現状についてお話ししていただきました。たくさんの参加者があり、興味深いお話を聞くことができました。

にこやかにお話しされる先生

演 題　Geoparks-Global geo-ecological heritage brought to people‘s attention
－人々の注目を招く世界的なジオ生態学的遺産－

ドイツのジオパークはもともとは「環境保全」を訴える民族運動からスタートした。最初は地域のとても小さな運動だったが、全国に拡大していった。途中でユネスコに参加することで地域の発展のカギとなった。

ジオパークの活動はもともと SDG s とつながりが深く、ユネスコの掲げる 2030 年までの持続可能な開発の 17 の目標もジオパークで解決できると考えている。

ドイツのジオパークの大きな目標は自然と人間の共生と持続可能な未来のための開発を実現することであり、学校、博物館、大学、研究者等が協力して大きな社会問題に取組んでいる。

ドイツには 8 か所の世界ユネスコジオパークと 10 か所のジオパークがある。国内のジオパークのネットワークはジオユーゲンという組織となっている。

例えば、ドイツのネルトリンガー・リースはバイエルン州西部にある直径約 24 km の円形の盆地である。リース・クレーター (Ries crater) とも呼ばれる。

クレーターの中にある街並み

クレーターの中心から南西 6 km の場所にネルトリンゲンの街がある。2022 年に一帯がユネスコ世界ジオパークに登録されている。

隕石が衝突してできたクレーター内の城壁で囲まれた昔の街並みが観光スポットとなっている。生きている博物館とも言われ、１万年前から現在までの変化を勉強することができる。地質の歴史だけでなく、ローマ帝国時代の歴史や人間・自然・生物など好きなテーマを選んで研究を進めることもできる。

ジオパークのすばらしさを解説するガイドは地元の学生や教員、研究者などが行っており、リースがどんな所か何があるのかを知らなく訪れても、リースという名前で観光客を誘致して人間と自然と地質のつながりの理解を深めてもらうことができる。

ジオパークを支える団体は法人化され、ボランティアで活動を行っている。運営費は市や郡から一部支払われているが、観光面でホテルや商店など、地元への経済的なリターンも多い等バランスがとれている。

このように、ドイツではジオパークの自然環境を守りながら教育やツーリズムの場とすることによって地域振興を進めている。自分のまわりの自然や文化、その価値を守りたいと思っている人たちが中心になって行っている民族運動がジオパークの礎となっている。

熱心に聞き入る参加者

☆11/26・27 ESD ダイアログ 2022 ～自然遺産を教材とした SDGs教育とは～

昨年は富山で開催された ESD ダイアログが、今年は恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを会場に行われました。主旨は環境省 EPO 中部活動支援センターによるジオパークを題材に自然遺産を活用した ESD の在り方を考える内容でした。

先の全国大会開催地である白山手取川ジオパークが環境のバランスを表すパズルを使った ESD 活動を発表しました。また、勝山市の小学校、平泉寺小学校、室岡（むろこ）小学校の 2 校が、それぞれ総合的な学習の時間を使って取り組んでいる環境保全活動を発表しました。

勝山市の小学校全部が行えるわけではないこと、中学校や高校では地域となかなか繋がりにくいことなど、勝山市教育委員会の方は ESD を広げていくことの難しさを話していらっしゃいました。

立山黒部ジオパークは、各自治体で行われている、ふるさと教育の発表を行いました。

立山黒部ジオパークにあるたくさんの地域遺産を、教科や総合的な学習の時間の教材として取り上げることはそんなに難しいことではありません。ただ、ESD として学校や地域で教育活動として広げ、子供たちへの継続的な活動へとつなげることは、地域や各種団体の方々の理解と協力を得る必要があります。

ジオパークを広く知ってもらうことと、その価値を教育へ結び付けていくことは ESD を広げていくために不可欠だと感じました。

平泉寺小学校の児童が引き継いでいるふるさと活動の発表の様子

ヨシ刈り

＜平泉寺小学校の ESD＞

総合的な学習の時間に、平泉寺地区の「池が原湿原」の環境を守るため、動植物の個体調査、水質調査などを行う活動からスタート。生活にヨシを使わなくなったことから繁殖したヨシを刈り取って、そのヨシを再利用したヨシのストロー作り、販売と環境保全活動につなげる。また、ふるさと教育の１つとして 2019 年から 6 年生が「地域の語り部」として平泉寺白山神社の観光ガイドも行っている。福井市の一条小学校と語り部の交流を広げるなど、地域を挙げて持続可能な開発のための教育（ESD）に取り組んでいる。

これらが評価され第１２回日本 ESD 大賞の小学校賞、第９回グッドライフアワードの環境大臣賞優秀賞を受賞した。

立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

■たてくろ　見どころ紹介コーナー

高瀬湧水の庭

富山の名水 100 選

（入善町：黒部川扇状地エリア）

黒部川扇状地湧水群の一つ

黒部川扇状地は、北アルプスに降る雪や雨による地下水に恵まれた地域です。特に海岸沿いには、掘り抜きと呼ばれる自然に地表まで吹き上がる井戸が至る所にあり、生活水として人々を潤してきました。

中でも、高瀬湧水の庭は、黒部川右岸の入善町で最も親しまれている湧水の１つです。水温は年間を通じて１２℃前後と冷たく清らかで豊富な水がこんこんと湧き出しており、2006 年４月に「とやまの名水」に選定されています。屋根付きの水汲み場や駐車場が完備されていることや、県道沿いに位置していることなどから、県内外からおいしい水を求める人たちでにぎわっています。

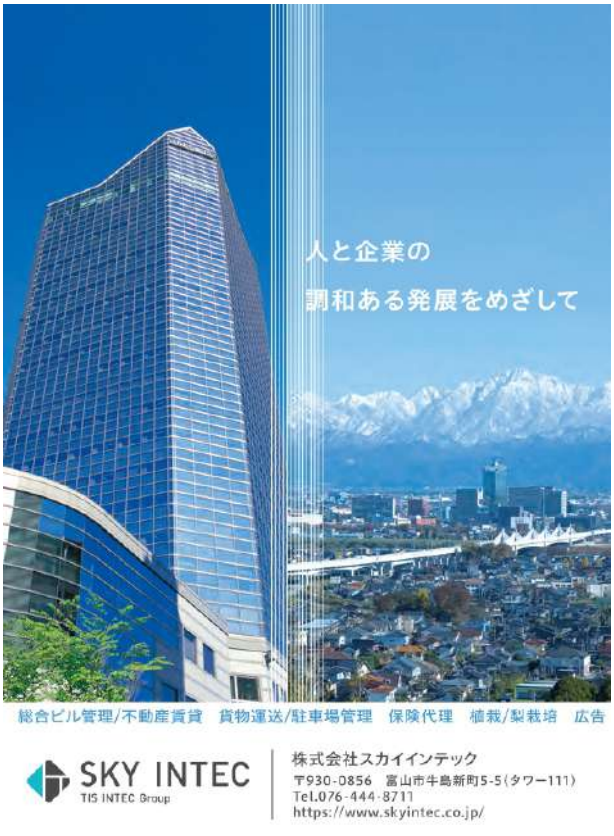
高瀬湧水の庭は、立山黒部ジオパークの文化サイトに登録されています。

https://tatekuro.jp/enjoy/pointDetail.php?id=75

たくさんの人が訪れる
幹線道路沿いの水汲み場

■ 協会会員企業の紹介

立山黒部ジオパーク協会の会員企業を、五十音順（昇順、降順）でご紹介しています。



＜編集後記＞

今年も残りわずかとなりました。今年の漢字は「**戦**」だそうです。ウクライナの情勢や円安が落ち着かない厳しい日々の中でしたが、12 月のサッカーのワールドカップで「***Bravo ！***」の歓声に日本や世界が沸き立つエネルギーを感じました。シンポジウムや講演会に参加して、ジオパークのもつポテンシャルの高さを改めて知ることができたと思っています。

さて会員の皆様には、どのような一年だったでしょうか？年末を控えて慌ただしい日が続きますが、良いお年をお迎えください。

立山黒部ジオパーク協会では、富山県東部地域の魅力を世界へ発信するために、民間活力を活かしたジオパーク活動を行っています。私たちの活動を支援してくださる方、手助けをして下さる方をお待ちしています。特に、オンラインの事業や動画編集等について得意な方を探しています。

興味のある方は、立山黒部ジオパークのホームページをご覧いただくか、立山黒部ジオパーク協会　（076-431-2089）までお問い合わせください。

立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK
GEOPARKS JAPAN